

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202320		
法人名	有限会社 グループホームかいぜ		
事業所名	グループホームやみね		
所在地	長崎県佐世保市矢峰町82-1		
自己評価作成日	平成22年12月	評価結果市町村受理日	平成23年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成23年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・私共のグループホームは高台の静かな住宅街に位置し、敷地内には庭園があり、四季折々の木々や草花が楽しめる環境にある。 ・母体が医院であり医療全般において安心して生活ができる。 ・家族とのかかわりを大切にいつでも来所できるようにしている。 ・残存能力の維持、向上に努め作業療法士によるリハビリや生活支援も行っている。 ・ユニット間が自由に往来できる。 ・喫煙室があり、職員の見守りの中でタバコが吸える。 ・地域の行事や清掃に積極的に参加し、事業所自身が地域の一員として交流できるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念にある「利用者一人ひとりの人格の尊重」「安心して過ごせる支援」「笑顔の絶えない毎日を送る支援」を具現化し、日々利用者本位の支援に努めている事業所である。母体が医療機関であり、ホーム長が看護師であるため、重度化しても本人家族が安心して生活できるよう精神面のフォローも含めて体制ができています。理念に沿った支援のために、職員にアンケートを実施し、スキルアップの希望に沿って研修受講を行うなど、職員にとっても希望が叶う職場となっている。また、外部評価の意義を十分に理解し、昨年の改善点に取り組み改善していることも、事業所が更なる質の向上に向けて前進する姿勢であることを表しており、現状に留まらず、利用者が笑顔で安心して過ごせるよう支援に邁進している事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は日々目の付くところに掲示し毎朝の申し送り、基本理念、職員の心得、スタッフの目標を唱和し常に意識した個別ケア実施に向けて努力している。	理念は朝礼で唱和し、支援を行っている。理念にある「地域とのかかわり」では、公民館祭りに利用者の作品を展示して参加している。住み慣れたところで安心して暮らしてもらえる環境を提供し、人格、個性を尊重して支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は自治会に入っており町内の回覧板で行事や祭り等その他の連絡を受けている。 地域の祭りには入居者の作品を展示させていただき地元の人々と交流を図る機会を持てるようにしている。	自治会に加入しており、町内の当番、掃除、夜警も引き受けている。事業所の夏祭りには区長、公民館長、民生委員などの参加があり、交流している。施設長が知り合ったボランティアのチャンジーバンドによる音楽の慰問、日舞、大正琴の訪問など多彩な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年間行事のうち夏、冬の2回、家族や近所の方々を招待し利用者の様子や日々の生活を見ていただきホームを理解していただくように働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施しており、ホームの活動状況や利用者の状況などを定期的に報告している。 会議での意見や要望は職員会議で話し合いサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度、規程のメンバーで開催している。メンバーから火災予防のための漏電点検のアドバイスを受け、実施している。また、家族代表から室内での服装について意見が出され、支援に反映するなど、活発に意見交換が行われて、事業所は運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、市役所の担当者との信頼関係を深め情報共有を行い、いつでも相談・協力できるように取り組んでいる。	生活支援が必要な利用者については市担当課の訪問時に相談する機会を持ち、情報を共有している。また別の担当課へ福祉用具についての相談をしており、積極的に協力関係を築くよう働きかけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを熟知し、また身体拘束防止への研修参加を促し、研修後は全体会議を行い現在の状況と照らし合わせて皆で取り組んでいる。	市主催の身体拘束の研修を職員が受講し、内容を内部に報告し、職員に周知している。契約書には身体拘束の具体例を明記し、家族にも知らせるよう工夫している。言葉の拘束については、職員ミーティング時に話をしており、全員で拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、毎年、研修会で学ぶ機会を持ち高齢者虐待防止マニュアルや社会の情報をもとに全体会議で話し合い、高齢者の人格・尊厳の大切さを全職員が理解し見過ごすことがないように注意をはらい防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に管理者がこの制度について理解しており対応が必要と思われる利用者がある場合は随時、管理者は職員に説明・アドバイスを行いながら、利用者の支援に結びつけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の重要事項説明書などをもとに、利用者の意見や家族の意向・不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を得た上で、手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアの中や家族会・ホームのイベントを通じて利用者や家族の意見・要望を聞き取っている。また、玄関先に意見箱を設置している。 運営推進会議では、意見を交換し、運営に反映させている。	家族の訪問時に声をかけ、要望を聞きだすよう努めている。運営推進会議の家族代表を交代したり、年1回の家族会などでも要望がないか問いかけている。外出支援の車椅子借用について、家族から借りられる情報を得て、無料で借りることができるなど、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、コミュニケーションを図る機会を作り、意見や提案を聞く場を設けている。	月2回のミーティングで職員は意見や提案を行っている。職員にアンケートを実施し、その結果からケアプランの立て方の勉強会、認知症、AED、在宅酸素の設置の仕方などの研修を実施しており、職員の意見、要望は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者の意見や実情を見て、職員の勤務状況を把握している。各自が、向上心を持って働けるよう永年表彰を行っている。資格取得時には資格手当など、やりがいや向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの実力を把握し、その人に合った資格を取得できるように声掛けを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が、同業者との勉強会や相互訪問などを行い、サービスの質を向上させていく取り組みを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの見学や電話での問い合わせの段階から積極的に応じ、来所しやすい雰囲気作りに努めている。相談から利用に至るまでよく傾聴し、共感して信頼関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までのサービスの利用状況や困りごとなどの経緯について家族の立場に立って話を聞き、信頼関係を築くことが出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が、今、必要としている支援を、把握した上で、当ホームのサービス内容や支援方法の説明を行っている。また、他にもグループホーム以外のサービスなどの説明をし必要としている支援に応じた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族と利用者間の会話や利用者との毎日の関わりの中で、「その人を知る」ことに努め、できる能力を活かし、無理なことは支援し、協力して、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の思いをしっかり受け止め、絆を大切にし、利用者の様子や職員の思いを伝え、家族と職員の信頼関係を深め、本人を支えていくための協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が、これまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握した上で、それぞれと協力してその関係を断ち切らないような支援を心がけている。	月1、2回、囲碁を打つ友人の訪問が続いている。同じマンションの住人の訪問があったり、同窓会の誘いには家族同伴で参加している。踊りの発表会を鑑賞に出掛け、盆や正月は家族が自宅に連れて帰るなど、職員、家族は利用者の馴染みの人や場との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の人間関係を把握し、利用者が孤立せずに、共に暮らしを楽しめるよう、それぞれに見合ったレクリエーションの提供や掃除や洗濯等で、お互いが協力して、生活できるよう、気を配り、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後にも電話や手紙で、安否を訪ねたり、ホームの行事に招待したり、相談に応じたり等、継続的な付き合いを心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント表及び日常の生活の中から、本人の生活や好み、家族の生活状況を把握し、その人らしい暮らしの支援に向け、職員全体で、検討している。	職員は日常会話で昔話をして場面作りを行い利用者の思いや意向を把握している。会話が可能な利用者には何をしたいか希望を聞いており、表現できない方には表情から読み取っている。入浴や趣味の時間に会話がはずみ把握できることがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後の面談で、本人や家族からの情報提供や、前施設からの情報収集等から一人ひとりの生活歴や暮らし、生活環境をアセスメントし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送り、情報を共有し、その日の現状を、職員全体で、把握し、その人に応じた支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の思いや意向は、日頃の関わりの中で、話し合い、それぞれの意見や希望を職員全体で、検討し、意見やアイデアを出し合い、現状に即した介護計画を作成している。	毎日、計画が実施できたかどうかを記録しており、実施できなかった日の原因が判明するなど記録を活用している。アセスメントはホーム長、副主任が聞き取り、本人家族の希望もヒヤリングして計画に反映している。計画案はケアプラン会議で検討し、職員の了解を取り、家族へ説明し同意を得ている。3ヶ月に一度見直し6ヶ月でモニタリングし作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、誰が見ても分かる様な書き方をしており、ケアの実践・結果・気づき等も特記事項を利用して、情報を共有しながら、ケアに努め、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に合わせ、かかりつけ医への受診介助、美容室、買い物等につき添い、満足な生活を送れるように支援している。又、作業療法士を、月2回、依頼し、リハビリにも取り組んでいる。地域のボランティアによるレクリエーションも取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが、地域で安心して、暮らし続けられる様、家族の代表や民生委員の協力を得ながら、地域の行事に参加して、各個人の力を発揮し、安全に暮らしを楽しむことが、できる支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を優先し、受診をしている。それぞれのかかりつけ医とは、連絡を取り合い、情報交換をおこなっている。	希望に沿ったかかりつけ医を継続しており、家族の意向で変更の申し出があった場合は合議により移行している。母体医療機関の医師が往診しており利用者全員の状態を把握して対応している。受診結果は、「受診記録簿」に記入し、また個人記録や業務日誌などで職員間で共有しており、家族にも報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が、数人おり、介護職は、毎日のチェックを報告し、適切な対応・処置を行い、体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が、入院した際は、受け持ちの看護師らより状況を共有できるようにしている。退院の際には、看護師やソーシャルワーカーとの話し合い、安心して、帰宅できるような環境作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に、終末期の看取りについて、本人と家族に意向を聞き、事前に確認書を作成している。重度化した場合は、その都度、改めて、家族・主治医・管理者・看護師等と話し合い、ホームで出来ることを十分に説明し、納得が、得られる治療及び介護支援に取り組んでいる。	利用開始前に看取りの指針について説明し、「事前確認書」により家族の意向を把握している。家族の看取りの意思に変化があった場合は、希望にあった対応に努めている。管理者は、職員が方針内容について理解し、共有することと看取りの支援で精神面で不安がないようミーティングなどで話をし伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備え、職員は、講習会へ、積極的に参加したり、マニュアルを作成し、常に見やすい所に置き、すぐに対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間や夜間と状況に応じた避難訓練を年に2回実施している。また、地域の方々にも訓練に参加して頂くなど、協力体制を築けている。また、災害時の避難場所の確認及び非常食の確保も行っている。	年2回消防訓練を消防署立会いで実施している。地域住民参加の昼間と夜間想定を行っており、他に事業所独自の訓練もある。職員は、訓練後反省点や今後の課題について話し合い共有している。危険地域は、確認しており緊急連絡網も機能する場所に掲示している。非常持ち出し品の確認や食料の備蓄など災害に備え準備体制ができて	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、尊敬の念を持って接しており、自尊心・人格・個性を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応をしている。また、記録や情報が、第三者に漏れないように気をつけている。	職員は、利用者の尊厳を重視し、やさしく、静かに敬語で声かけするよう心がけている。個人記録は、利用者、来訪者の目に付かない場所に保管している。職員は、守秘義務について同意書で確認をしているが、具体的に守秘義務に反する項目までは伝えていない。	利用者、家族のプライバシー確保のため、具体的に項目をあげ「守秘義務」について全職員が確認することを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の介護の中で、コミュニケーションを大切にして、本人の思いや希望が、素直に表に出せる様に、ゆとりある態度で、接している。意思表示が、難しい人には、表情や反応で汲み取り、職員間で、話し合い本人の希望に近づく様、努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常務を優先する事なく、一人ひとりのペースや希望を重視し、その人らしい、充実した生活になる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回、美容師の来訪にて、カットしてもらったり、行きつけの美容院を希望される方には、要望に応じて、対応している。いつも身綺麗に、すっきりとした衣服やお化粧で過ごしてもらえる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を味わえる料理を工夫し、新鮮な食材で、好みを考慮しながら、メニューを利用者と一緒に考えている。食器の片付けやテーブル拭き等は、職員が間に入り、一緒に楽しくしている。	食事は調理専門の職員が朝食以外の食事を作っている。旬の食材を活かし、目でも楽しめるよう彩りも工夫したメニューを心がけており、職員も利用者と一緒に食事をしている。誕生日などの行事食は、職員が利用者の意向を把握し、献立を作っており「クリスマスバイキング」は家族も呼んで一緒に楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量・水分量が、ひと目で、分かる様に、一覧表にしている。一人ひとりの状態に合わせたメニューや食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には、一人ひとりの今までの習慣に合った方法で、うがいや歯磨きの口腔ケアをして頂いている。介助が、必要な方には、職員が、口腔ケアの清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、個人個人の毎日のパターン、習慣を把握して、誘導や声かけで排泄の失敗を減らし、自立に向けた支援を行っている。	排泄の自立した利用者以外は排泄パターン票でタイミングを把握し、トイレ誘導を行っている。排泄パターン票活用で尿漏れの回数が減った利用者もあり、利用者の状況を把握しリハビリパンツから布パンツへの改善に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維、野菜を多く使い、又、おやつには、寒天類を提供したり、自然排便が、できる様に献立や飲水に力を入れている。毎日、体操や散歩、歩行訓練等、その人に応じた運動を行い、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各ユニットの入浴日を決めているが、毎日でもシャワー浴が、できるように支援している。順番や時間は、利用者の希望に出来るだけ、合わせる様にしている。又、入浴されない人には、清拭や足浴等で対応している。同姓介助を原則としている。	各ユニット週2回、入浴日を決めているが、希望に沿っていつでも入れる体制である。順番や湯の温度は利用者の希望に合わせるなど配慮している。浴室は広く車椅子も対応でき浴室、脱衣所の温度管理もできている。入浴拒否の利用者は、職員の声かけの工夫や、清拭、足湯などで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを掴み、日中は、離床と昼寝を組み合わせ、体操や散歩をしたり等で、身体を動かし、気持ち良く、安眠できるように支援している。昼夜逆転の時には、自然に過ごせる様に見守り、徐々に平常に戻る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の「薬一覧表」を見やすい場所に貼り、看護師が、セットしている。内容は、全職員が、薬剤情報書等で、把握している。与薬時は、複数の職員で確認している。状態変化が、見られる際、主治医や看護師と連携を図り、対応し、詳細な記録を残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみや能力を把握し、張り合いや喜びのある日々、を過ごせる様に、又、得意分野で、力を発揮できるように支援している。(片付け・掃除・編み物・パズル・囲碁・花札・トランプ・カラオケ等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調等を考慮し、数人で、近所の公園や神社への散歩、ホーム駐車場、買い物同行等をしている。歩行不安定な人は、ドライブで、外の空気を吸える様にしている。家族にも受診や外食、買い物、美容院等、本人の思いをお伝えし、協力を頂いている。	事業所は庭園が広く、季節によって花が咲くため、外気浴を兼ねてベンチを置き楽しんでいる。また、近所の公園や、神社へ散歩している。食材の買出しに職員と利用者が一緒に出かけたり、個人の買い物支援も行っている。家族の協力で外食をしたりドライブや日帰り旅行など外出する機会をつくり支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が、できる方は、本人に持って頂いており、無理な人は、ホーム事務所預かりとして、必要な物は、買い物同行し、いつでも購入できる様にしている。支払いは、なるだけ、本人が、できる様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に電話を持っている人もおり、自由に利用している。事務所でも本人希望時、即、対応できる様にしている。手紙は、届いたら、本人に、すぐ、渡すようにしている。手紙を、書く時為の便箋やはがき、切手等の提供、投函の支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、バリアフリーで、手すりは、動きやすい位置に取り付けている。カーテンを2重にし、音や光を調節している。臭いや空気の澱みがないように、随時、換気扇を作動させ、常に、換気している。テレビの音量は、さりげなく、調節し、不快感を与えない様にしている。季節の花を飾ったり、絵や手作りカレンダーを、毎月張り替え、居心地よく、過ごせる様に工夫している。	エレベーターやホールに季節の花や行事の飾りなどがあり、リビングには利用者と職員作成の粘土の置物などが置かれている。壁には、カレンダー、イベントの写真が掲載され明るく楽しい雰囲気である。日差しも入り明るく、掃除、換気、温度管理は職員が行っている。その他、業者による適宜メンテナンスを行い清潔で居心地の良い空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子、テーブルをホールや廊下に置き、一人でも、又、気の合う利用者同士でも、思い思いに自由に過ごして頂ける様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を持参してもらい、自宅で、過ごすのと同じ環境の中で、居心地良く、過ごして頂ける様に個別性のある居室作りをしている。	持ち込み制限はなく利用者の趣味や嗜好を活かした生活観のある居室である。温度、湿度が管理しており、家族の協力で健康状態に配慮した加湿器、空気清浄機などの設置もある。掃除は、毎朝職員が行い清潔である。ポータブルトイレは、存在がわからないよう工夫しており臭気もない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には、それぞれの目線に合った位置に目印となるものや表札をかかげている。共有スペースは、広々とした空間とし、トイレ等は、一人で、行けるように矢印をつけ、安全に生活できる様に工夫している。		